

利権勢力の検査・マスコミ

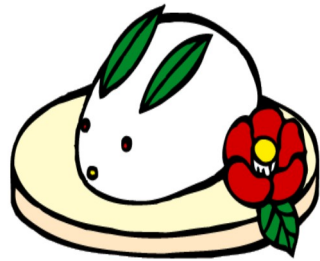
なぜ東京地検や大マスコミが、「小沢叩き」にこれほど血道を上げるのか？。親の敵のように敵視している。ズバリ、このままでは小沢一郎に既得権益をぶっ壊されかねないからだ。

自民党の村上正邦・元参院議員が、「サンデー毎日」で小沢一郎について興味深い指摘をしている。

「小沢幹事長に対する評価で

すか？ ひと言で言えば『あっぱれ』ではないでしょうか。天才的で、いまの時代が要求する政治家だ。戦国時代でいうなら織田信長みたいな存在でしょう」「旧体制を打破し、そして壊していくために、ぜひとも必要な政治家でしょう」

織田信長は、商売の権利を独占していた商人を排除するために「楽市楽座」を開き、修行もせず酒色に耽（ふけ）り武装していた僧を一掃するために比叡山を焼き打ちした。時代を前に進めるために、既得権を許さなかった。



織田信長は、天下統一を果した前に倒れた。小沢一郎も政治的に抹殺されようとしている。しかし、自分たちの既得権益を死守するために、邪魔な政治家を抹殺し、国民が選んだ政権を潰そうなんて許されない。小沢幹事長が失墜したら、民主党政権はあつと言間に崩壊する。

いう気にならなっているのでしょうか。同じように、大マスコミは、テレビ・ラジオの電波を独占してきたが、民主党は独占を許さず電波をオークションにかけようとしている。既得権を奪われたら、大手メディアは存続の危機に陥る。地検も大マスコミも、なにがなんでも、破壊者の小沢一郎を葬りたいのがホンネです」(政界事情通)

織田信長は、天下統一を果した前に倒れた。小沢一郎も政治的に抹殺されようとしている。しかし、自分たちの既得権益を死守するために、邪魔な政治家を抹殺し、国民が選んだ政権を潰そうなんて許されない。小沢幹事長が失墜したら、民主党政権はあつと言間に崩壊する。

違っていない。日本をドラスチックに変えようとしているが、合理的だし、国民の意に沿うものが多い。例えば、「国会改革」を見ればよく分かる。野党が国会審議で主導権を握れる仕組みにするために、議員数に比例して配られている「政党助成金」を、野党に重点配分されるように法改正しようとしている。敵に塩を送るようなものだが、本人は信念に従い、損得を度外視している。

「小沢幹事長の最終目標は、日本に『政権交代可能な2大政党』を根づかせることです。政権交代が起きないと、本当の意味での民主政治が育たないと考えている。そのためには、いったん既得権益を一掃する必要があると思っていますのでしよう。自民党を殲滅(せんめつ)しようとしているのも、そのためです。実際、戦後60年間、政・官・財で癒着してきた自民党が大きな塊として残ったままでは、日本の政治は大きく変わらな

小沢幹事長は、自民党を完全に潰した後、健全な2大政党をつくるために、もう一度、政界再編を仕掛けるつもりでしょう」(政治ジャーナリスト・鈴木哲夫氏)

たしかに、自民党が消滅し、新たな2大政党が誕生すれば、日本の政治は一新されるだろう。しかし、既得権を握っている古い利権勢力は、それを阻止しようと、死に物狂いで「小沢潰し」に走っている。「民主党と旧勢力の闘いは、これから激しくなる一方でしょう。旧勢力はガムシヤラに民主党を潰しにかかってくるはずです。宮内庁が、天皇と中国の習近平副主席との会見について、突然、1カ月ルールを持ち出し民主党を批判したのも、その一環でしょう。1カ月ルールは、自民政権時代にも破られているのに、これまで問題にもしませんでした。

民主党は敵に囲まれている。しかし、昨年夏の政権交代は日本にとつては『革命』です。社会の構造が変わるのは当たり前。有権者も、閉塞した日本社会を変えて欲しいと願って民主党に一票を投じたので

(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
2010年1月14日 (木) N094
地域から明るい未来を作ろう

「官僚組織と大マスコミは、戦後、既得権益にとっぷりつかって来た代表格です。とくに検査は聖域だった。ところが、小沢周辺は『検査総長を国会同意人事にする』『民主

なにより、小沢一郎が目指す方向は間

国民の支持は小沢にあり

政界再編を仕掛けるつもりでしょう」(政治

国民の支持は、『脱官僚』『国民生活が第一』を掲げる民主党にあります。60年間つづいた強固な体制を3カ月や半年で引っくり返すのはそう簡単ではない。